

## 株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777(通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行います。 公告掲載URL <a href="http://www.osaka-soda.co.jp/">http://www.osaka-soda.co.jp/</a> (ただし、やむを得ない事由により電子公告を行うことができない場合、日本経済新聞に掲載する方法により行います。)

### (ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)にお問合せください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行全国本支店でお支払いいたします。

### 単元未満株式をお持ちの株主さまへ

当社は、1単元(100株)に満たない当社株式を所有されている株主さまの便宜をはかるため、「単元未満株式の買増・買取制度」を実施しております。  
お手続きなどの詳細に関しましては、証券会社にて株式を管理されている場合はお取引先の証券会社に、特別口座にて株式を管理されている場合は、三菱UFJ信託銀行にお問合せください。

### 株式併合および単元株式数変更のご案内

当社は2017年10月1日をもって当社株式5株を1株に併合し、単元株式数を1,000株から100株に変更いたしました。

なお、この株式併合および単元株式数の変更にもない株主さまに特段のお手続きをいただく必要はございません。

#### 株式併合による影響

株式併合により、発行済株式総数が5分の1に減少しましたが、純資産等は変動しませんので、1株あたりの純資産額は5倍となり、株式市況の変動など他の要因を除けば、当社株式の資産価値に変動はありません。

#### 1株未満の端数が生じる場合の処理

株式併合の結果、1株に満たない端数が生じた場合には、会社法の定めに基づき、一括して処分し、その代金を端数の生じた株主様に対して、端数の割合に応じて分配いたします。

当社グループをより知っていただくために、ホームページもご活用ください。

- 最新の情報はこちらでご覧いただけます。  
ホームページアドレス  
<http://www.osaka-soda.co.jp/>



トップページ

株主のみなさまへ

# 第163期 中間報告書

2017年4月1日から2017年9月30日まで

 株式会社 大阪ソーダ

証券コード：4046

<http://www.osaka-soda.co.jp/>

 Something Better with Chemicals

化学で笑顔を  
育む会社

すごソダ

 株式会社 大阪ソーダ

本社 〒550-0011 大阪市西区阿波座1-12-18  
TEL.06-6110-1560



## 株主のみなさまへ

株主のみなさまには、平素より格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当社グループは、第163期中間期(2017年4月1日から2017年9月30日まで)の決算を行いましたので、ここに事業の概況についてご報告申し上げます。

2017年12月

代表取締役  
社長執行役員 **寺田 健志**

## 事業の経過およびその成果

当中間期におけるわが国経済は、企業収益や雇用情勢の改善などを背景とした国内外の底堅い需要の下支えにより、緩やかな景気回復基調が続いているものの、米政権の政策運営や地政学リスクなど海外情勢は引き続き不透明な状況で推移しました。

このような環境のもと、当社グループは、基礎化学品では、効率的な生産体制の構築によるコスト競争力強化に努めるとともに、原燃料価格の変動に対応した価格是正に取り組んでまいりました。機能化学品では、合成ゴムおよび合成樹脂などの主力製品のシェア拡大に向けて海外を中心とした営業活動を推進する一方、アクリルゴムなどの新製品の早期立ち上げに注力してまい

りました。当社グループの第三の収益の柱と位置付けるヘルスケア関連事業につきましては、医薬品原薬・中間体事業では、特殊設備を活用した受託案件の獲得や新規事業の創出、医薬品精製材料では、東欧・中国に加えインド市場で新規顧客を開拓してまいりました。また、本年8月に、株式会社資生堂よりクロマトグラフィー事業を譲り受けることに合意し、12月に医薬精製材料事業の一貫生産体制が確立する予定です。住宅設備ほかでは、事業ポートフォリオの入れ替えを継続的に行い、収益力の強化に取り組んでまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の連結売上高は、479億8千9百万円と前年同期比4.5%の増加となりました。利益面におきましては、営業利益は、34億5千1百万円と前年同期比6.3%の増加となり、5期連続の増益を達成いたしました。経常利益は、38億9百万円と前年同期比46.5%の増加、親会社株主に帰属する四半期純利益も、24億9千4百万円と前年同期比41.4%の増加となりました。

なお、中間配当金につきましては、1株につき5.5円とさせていただきます。

## 今後の見通し

今後、当社グループは、より積極的な事業戦略を推進するための強固な収益基盤の構築を目指してまいります。

その実現に向けて、新製品の上市、海外事業の展開、ヘルスケア事業の拡大加速に集中的に取り組むとともに、本年10月の新研究開発棟「総合研究開発センター」の竣工を機に付加価値の高い独創的なものづくりを推進し、次世代を担う新製品の創出と新領域への拡大により、さらに高い収益力を持つ企業グループへと進化させてまいります。

今期の見通しにつきましては、売上高 1,000億円、経常利益 70億円を見込んでおり、達成に向け全力で取り組んでまいります。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



OSAKA SODA

グループ企業理念

高い志をもち 独創的なものづくりで 豊かな社会の実現に貢献します

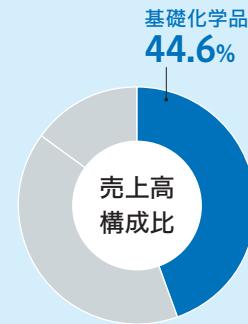
基礎  
化学品

売上高 **213億9千1百万円** 前期比**7.5%**増加 ↑

クロール・アルカリは、かせいソーダの出荷が順調に推移したことに加え価格改定の実施により、売上高が増加しました。

エピクロルヒドリンは、アジアでの需給環境の改善を受け海外市況が上昇し、販売数量が堅調に推移したため、売上高が増加しました。

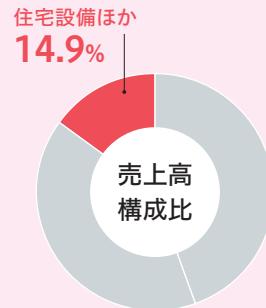
以上の結果、基礎化学品の売上高は213億9千1百万円と前年同期比7.5%の増加となりました。



住宅設備  
ほか

売上高 **71億5千9百万円** 前期比**7.0%**減少 ↓

化粧板および生活関連商品は引き続きポートフォリオの入れ替えを行っており、売上高は71億5千9百万円と前年同期比7.0%の減少となりました。



機能  
化学品

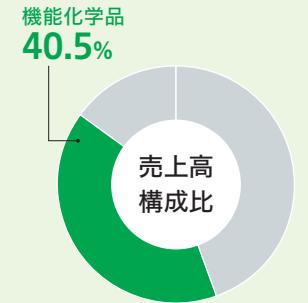
売上高 **194億3千7百万円** 前期比**6.1%**増加 ↑

エピクロルヒドリンゴムは、国内の需要回復が進む一方、海外では欧州、中国の自動車用途向け出荷が堅調に推移し、売上高が増加しました。またアクリルゴムは採用実績の拡大に向け営業活動を推進しました。

ダップ樹脂は、欧州向け高感度UVインキ用途の拡大ならびに米国市場での新規用途開拓の成功により輸出が好調に推移したため、売上高が増加しました。

アリルエーテル類は、シランカップリング剤用途を中心に、米国、中国向け輸出が堅調に推移したため、売上高が増加しました。

医薬品原薬・中間体は、国内では新規開発の抗ウイルス薬、不眠症治療薬および薬用化粧品原料などが順調に推移しました。また、海外市場における強心剤の中間体販売、ジェネリック原薬の輸入販売などの新規事業の開



始により、売上高が増加しました。

医薬品精製材料は、欧州主要顧客の在庫調整の影響を受けたものの、中国市場でバイオ医薬品精製用途向けの販売が伸長するとともに、国内では分析用途および原薬精製用途向けが堅調に推移しました。

以上の結果、機能化学品の売上高は194億3千7百万円と前年同期比6.1%の増加となりました。

大阪ソーダグループのセグメントと主要製品

●セグメント

●基礎化学品

●主要製品

かせいソーダ、塩酸、液化塩素、塩素ガス、次亜塩素酸ソーダ、亜塩素酸ソーダ、塩素酸ソーダ、かせいカリ、水素ガス、エピクロルヒドリン、アリルクロライド、塗料原料、接着剤原料など

●機能化学品

アリルエーテル類、エピクロルヒドリンゴム、ダップ樹脂、省エネタイヤ用改質剤、医薬品精製材料、レンズ材料、感光性樹脂、カラーレジスト、電極、医薬品原薬・中間体、光学活性体、グラスファイバー、資源リサイクルなど

●住宅設備ほか

ダップ加工材、住宅関連製品、健康食品、化学薬品の輸送・貯蔵、化学プラント、環境保全設備建設など

## 総合研究開発センター竣工

### ■ 施設の概要

名称：総合研究開発センター  
 所在地：兵庫県尼崎市大高洲町9番  
 投資額：25億円  
 延べ床面積：約4,600m<sup>2</sup>



兵庫県尼崎市の所有地に2016年11月より建設を進めてきました新研究開発棟「総合研究開発センター」が完成し、2017年10月2日に竣工しました。

この新研究開発棟は、これまで同地内に点在していた各研究部隊を集約し、機能面の充実を図るとともに、コミュニケーションを取りやすい一体型オフィスとすることなどにより新たな結びつきや閃きを作り出して

いける仕組みを備えています。また、エントランスには大阪ソーダの技術を知ってもらうための展示スペースも設けてあり、オープンイノベーションの推進にも活用していきます。

この新研究開発棟の完成をきっかけとして、さらに開発のスピードと質を向上し、オンリーワンの価値創造で豊かな社会の実現に貢献していきます。

### ■ 研究開発体制



当社は、独創性のあるものづくりでスペシャリティケミカルを生み出し、世界トップシェアを獲得する製品を提供してきました。その創造力の源になっているのが、R&D本部の「イノベーションセンター」と各事業部の「技術開発部」を柱とした2つの研究開発体制です。R&D本部では技術シーズの探求開発から新製品・新技術の開発までを行っています。さらに、営業部と連携してニーズ収集・調査、マーケット開拓を実施し、早期の事業化を目指した開発を推進しています。また、技術開発部は多様化するお客様のニーズに対応した用途開発や製品改良を行うことで既存事業の拡大を支援しています。



高薬理活性室

抗がん剤に使用される薬理活性の高い物質を取り扱うため高薬理活性実験室を設け、抗がん剤の原料開発を行ないます。



有機合成実験室

取り扱いの難しい化学物質の有機合成を行うための実験設備で、局所排気装置も備えています。



分析室

機能性材料の開発に必要な各種分析機器を揃え、迅速にユーザー要求に対応できる品質管理体制となっています。



恒温恒湿室

自動車用部品や電子・電材部品などの高機能素材の開発に必要なシビアな温度・湿度の管理下で開発を行っています。

## 資生堂のクロマト事業を譲受

当社は株式会社資生堂(以下資生堂)のクロマトグラフィー事業を譲り受け、12月1日より製造受託会社であるサンヨーファイン医理化テクノロジー株式会社と中国に本社を持つ販売会社、三耀精细化工品销售(北京)有限公司が新たに大阪ソーダグループの一員となりました。

資生堂は化粧品の製造技術を応用し、HPLC(※1)用カラムおよび装置を中心にクロマトグラフィー事業を展開していました。資生堂のHPLCカラム「カプセルパック」、HPLC分析装置「ナノスペース」は、その高い性能と耐久性により業界内で確固たるブランドを築いており、国内だけでなく、中国・韓国をはじめとするアジア地域で広く利用されています。

このたびの事業譲受により、当社は資生堂のポリマーコート技術の獲得はもちろん、カラムや装置といった新たな事業領域への展開を実現すると同時に、クロマトグラフィー事業の一貫したバリューチェーンを構築してまいります。

また、当社の300種類を超えるHPLC用シリカゲル(※2)の豊富なラインアップに加え、ポリマーコートとダイソーゲルの技術を融合した新製品開発にも注力いたします。

当社グループの医薬品原薬・中間体事業とのシナジーを活かし、お客様の多様化するニーズに即応できる製品

開発を推進し、ヘルスケア事業のさらなる拡大、海外市場におけるプレゼンスの向上に努め、企業価値の増大を目指してまいります。



カプセルパック



HPLC分析装置  
「ナノスペース」

### ※1 HPLC

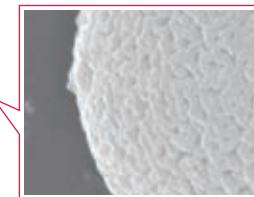
HPLC: High, Performance, Liquid, Chromatography.  
高速液体クロマトグラフィーの略

### ※2 HPLC用シリカゲル

この用途に使用されるシリカゲルは、直径数ミクロンのごく小さな粒子で、その表面には多くの孔が開いています。このシリカゲルの表面に化学的な処理を施すことで、医薬品をはじめさまざまな物質を分離、精製することができます。



シリカゲル(拡大写真)



表面に無数の孔を持つ微小な粒子  
(直径3~50μm)



医薬品の品質管理基準に適合した生産体制(尼崎工場)



サンヨーファイン医理化テクノロジー本社

### ■ 会社概要

#### サンヨーファイン医理化テクノロジー株式会社

本 社：京都府京都市南区東九条西河辺町12  
事業内容：カラム・装置の製造  
株 主：(株)大阪ソーダ 100%  
資本金：100百万円  
代表者：代表取締役社長 門屋 純一(大阪ソーダ 執行役員)

#### さんようせいさいかこうひんしょうしゅう 三耀精细化工品销售(北京)有限公司

本 社：北京市朝阳区劲松三区甲302号华腾大厦1102A室  
事業内容：中国でのカラム・装置およびシリカゲルの販売  
株 主：サンヨーファイン(株) 100%  
資本金：18百万円  
代表者：董事長 赤松 伸一(大阪ソーダ 取締役 常務執行役員)

# 中間連結財務諸表

## 中間連結貸借対照表(要約)

(単位:百万円)

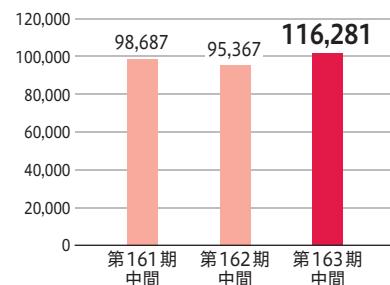
科目	前中間連結会計期末 (2016年9月30日現在)	当中間連結会計期末 (2017年9月30日現在)	前連結会計年度の 要約連結貸借対照表 (2017年3月31日現在)
<b>資産の部</b>			
流動資産	56,283	70,874	58,739
固定資産	39,083	45,406	42,764
有形固定資産	20,277	22,088	21,555
無形固定資産	1,171	1,218	1,207
投資その他の資産	17,634	22,009	20,001
資産合計	95,367	116,281	101,503
<b>負債の部</b>			
流動負債	29,995	32,830	31,390
固定負債	16,425	26,094	17,387
負債合計	46,421	58,924	48,778
<b>純資産の部</b>			
株主資本	44,548	49,556	46,576
その他の包括利益累計額	4,397	7,799	6,149
純資産合計	48,946	57,356	52,725
負債純資産合計	95,367	116,281	101,503

## 中間連結損益計算書(要約)

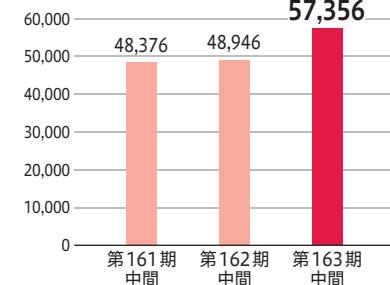
(単位:百万円)

科目	前中間連結会計期間 (自 2016年4月 1日 至 2016年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2017年4月 1日 至 2017年9月30日)	前連結会計年度の 要約連結損益計算書 (自 2016年4月 1日 至 2017年3月31日)
売上高	45,917	47,989	93,509
売上原価	36,837	38,682	75,335
売上総利益	9,079	9,306	18,174
販売費及び一般管理費	5,831	5,855	11,587
営業利益	3,248	3,451	6,586
営業外収益	250	485	456
営業外費用	898	127	506
経常利益	2,600	3,809	6,536
特別利益	—	106	—
特別損失	262	295	582
税金等調整前中間(当期)純利益	2,338	3,620	5,953
法人税、住民税及び事業税	673	1,027	1,822
法人税等調整額	△100	98	△189
中間(当期)純利益	1,764	2,494	4,320
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,764	2,494	4,320

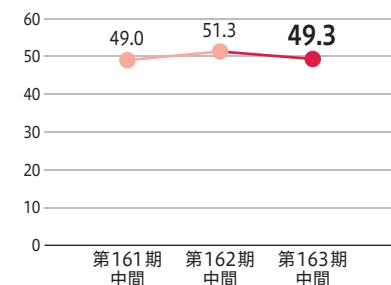
## 総資産 (単位:百万円)



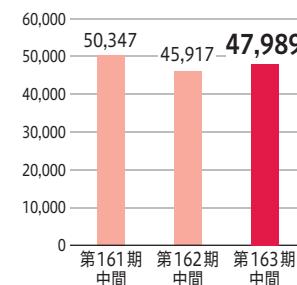
## 純資産 (単位:百万円)



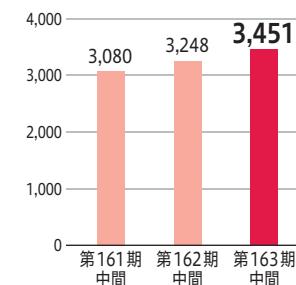
## 自己資本比率 (単位:%)



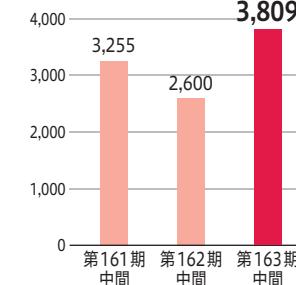
## 売上高 (単位:百万円)



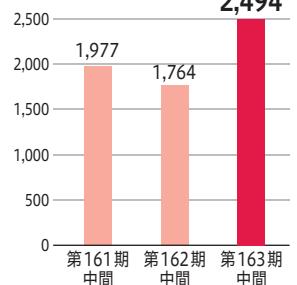
## 営業利益 (単位:百万円)



## 経常利益 (単位:百万円)



## 中間純利益 (単位:百万円)



## 中間連結財務諸表

### 中間連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

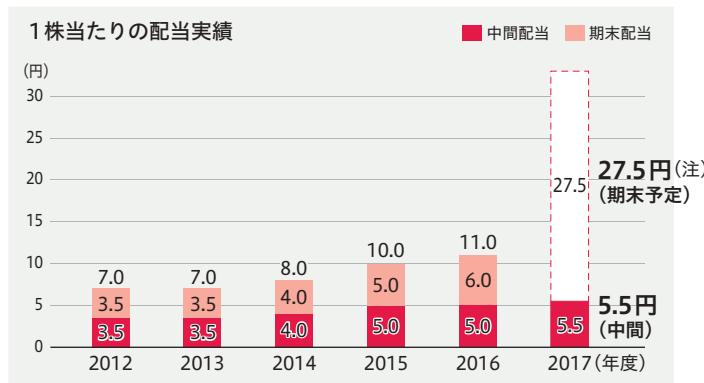
(単位:百万円)

科目	前中間連結会計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)	前連結会計年度 (自 2016年4月1日 至 2017年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,138	3,853	8,490
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,769	△2,306	△3,145
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,747	8,044	△3,506
現金及び現金同等物に係る換算差額	△745	196	△341
現金及び現金同等物の増減額	876	9,788	1,496
現金及び現金同等物の期首残高	19,036	20,532	19,036
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	19,912	30,321	20,532

### 中間配当について

2017年11月7日の取締役会決議により  
1株当たり中間配当金を5.5円、支払開始  
日を12月6日とさせていただきます。

(注)2017年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株  
式併合を実施しております。これにともない、2018年3月  
期(予想)の1株当たり期末配当金につきましては、株式併合  
の影響を考慮しております。



## 株式情報(2017年9月30日)

### 株式の状況

発行可能株式総数 ----- 300,000,000株  
発行済株式の総数 ----- 114,222,497株  
株主数 ----- 5,642名

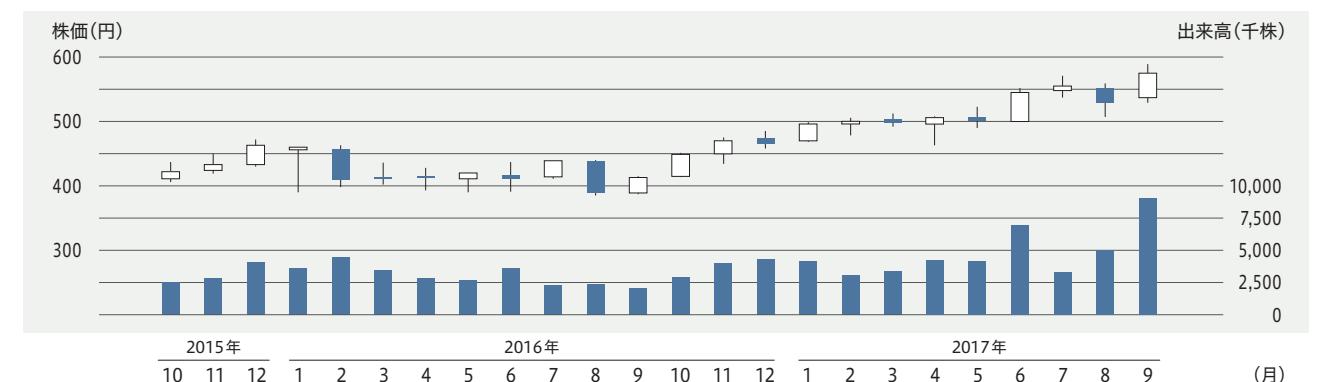
※2017年10月1日で株式併合(5株を1株に併合)を実施しているため、2017年10月1日  
で発行可能株式総数が60,000,000株、発行済株式総数が22,844,499株となっております。

### 大株主一覧(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	5,101	4.73
株式会社三菱東京UFJ銀行	4,384	4.06
株式会社福岡銀行	4,113	3.81
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	3,842	3.56
株式会社伊予銀行	3,744	3.47
帝人株式会社	3,393	3.14
株式会社みずほ銀行	3,348	3.10
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG/ JASDEC/FIM/LUXEMBOURG FUNDS/UCITS ASSETS	3,300	3.06
日本生命保険相互会社	3,188	2.95
旭化成株式会社	2,933	2.72

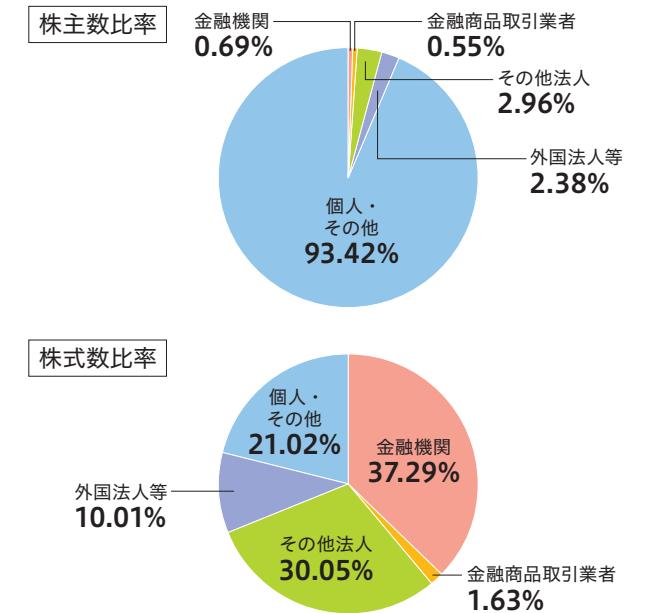
(注)持株比率は、発行済株式の総数から自己株式(6,432,903株)を控除して計算しております。

### 株価および出来高の推移



※2017年10月1日付の株式併合(5株を1株)前の株価および出来高を記載しています。

### 株主分布状況



(注)「個人・その他」には、当社の自己株としての保有分(5.63%)が含まれております。

## 会社概要 (2017年9月30日)

社 名 ----- 株式会社大阪ソーダ  
 OSAKA SODA CO., LTD.  
 U R L ----- <http://www.osaka-soda.co.jp/>  
 創 立 ----- 1915年(大正4年)10月26日  
 資 本 金 ----- 11,443百万円  
 連結従業員数 ----- 887名

### 子会社等の状況 (2017年9月30日)

#### 国内

会 社 名	主要な事業内容
ダイソーケミカル(株)	化学製品の販売
ダイソーエンジニアリング(株)	電極の製造販売、化学設備の設計・施工
サンヨーファイン(株)	医薬品原薬・中間体の製造販売
(株)ジェイ・エム・アール	資源リサイクル
DSロジスティクス(株)	化学製品の運送取扱い
岡山化成(株)	化学製品の製造
DSウェルフーズ(株)	機能性食品素材の製造、加工販売

#### 海外

会 社 名	主要な事業内容
DAISO Fine Chem USA, Inc.	医薬品精製材料の製造販売
DAISO Fine Chem GmbH	医薬品精製材料、医薬品原薬・中間体の販売
大曹化工貿易(上海)有限公司	機能化学品・電子材料等の輸出入
台湾大曹化工股份有限公司	機能化学品・電子材料等の輸出入
DAISO CHEMICAL (THAILAND) CO.,LTD.	機能化学品・電子材料等の輸出入

### 役員 (2017年10月1日)

#### [取締役・監査役]

代表取締役 会長	佐藤 存
代表取締役 社長執行役員	寺田 健志
取締役 常務執行役員	赤松 伸一
取締役 上席執行役員	堀 登
取締役 上席執行役員	古川 喜朗
取締役(社外)	福島 功
取締役(社外)	二村 文友
常勤監査役	瀬川 恭史
常勤監査役(社外)	谷口 隆治
監査役(社外)	森 真二

#### [執行役員]

執行役員	小西 淳夫
執行役員	門屋 純一
執行役員	平地 勤
執行役員	北野 智之
執行役員	雑賀 哲行
執行役員	高野 早人
執行役員	西本 光伸

## 当社グループのネットワーク (2017年9月30日)



#### 海外

